

## 第33回母子保健奨励賞受賞者の横顔

三條 加奈子氏

(54歳) 医師・山形県



地域の基幹病院勤務を経て、平成2年、産婦人科と小児科を併設する診療所を開設。妊娠から思春期まで一貫した医療サービスを提供し、地域の母子保健を向上させた。医師不足のなか、必要なときに受診できる体制の整備をめざし、休日・夜間診療に取り組んだ。また、乳幼児健診や子育て相談、講習などを通して子育てに困難や不安を感じる親への支援に力を注ぎ、地域の小児科医療を支える中心的存在として絶大な信頼を得ている。

西本 裕紀子氏

(46歳) 管理栄養士・大阪府



昭和61年、大阪府立保健総合医療センターに入職し、ハイリスク妊婦の栄養管理を担当。平成3年から小児医療部門の開設にあたり小児の栄養管理を担当し、基礎疾患をもつ病児の摂食機能の発達にあわせた哺乳や食事の支援に取り組み、とくに栄養管理が重要な難治性疾患児の個別指導において成果があった。また、院内の栄養サポートチーム発足に関わり、難病や重症児の栄養支援活動に尽力して病児栄養について先がけとなる功績があった。

大島 裕子氏

(54歳) その他・栃木県



平成16年、自らの子育て中に子育て情報誌の発行を開始。この活動が「あしかが子育て応援ネット」の発足につながった。育児家庭の孤立化や密室育児の深刻化が懸念されるなか、子育て家庭と地域との関わりの場を運営する一方、発達障害や弱視などハンディをもつ子とその親の支援に取り組んだ。「子育てするなら足利」を目指し、乳幼児期、学童期、思春期に向けた多様な子育て支援活動を行って、地域の育児環境の向上に功績があった。

田中 由香氏

(44歳) 保健師・兵庫県



平成6年、宝塚市に奉職。親子の心に寄り添う支援を活動理念に、乳幼児健診や新生児訪問など母子保健活動の充実に努めた。平成12年より児童福祉課にて保育所保健に取り組み、その経験を児童虐待防止ネットワークの立ち上げや児童虐待防止マニュアルの作成につなげた。また、平成19年より孤立する子育て家庭をゼロにすることを目標に掲げ、訪問指導の充実、保健師活動の向上、障害児支援などに取り組み、育児環境の向上に努めた。

入山 久美子氏

(54歳) 歯科衛生士・群馬県



歯科診療室勤務の経験を通して、むし歯予防の重要性を実感。昭和55年より富岡保健所管内の乳幼児歯科健診に従事した。平成8年から地域の歯科医師会の歯科衛生士として、市町村の乳幼児歯科健診の支援に力を尽くした。それらの活動を通じて、歯科保健指導の充実、健診でのフッ化物塗布と家庭でのフッ化物利用を組み合わせた乳歯のむし歯予防対策の推進、口腔ケアの啓発等に取り組み、乳幼児のむし歯罹患率減少に貢献した。

吉本 みどり氏

(54歳) 保健師・山口県



昭和54年、平生町に奉職。少子化が進むなか育児支援活動に取り組み、母子保健推進員の支援、すこやか育児推進員の設置など、地域ぐるみで子育てを応援する環境整備に努めた。中学生に生命の大切さを伝える体験学習事業で中心的役割を果たすなど、思春期保健にも積極的に取り組んだ。また、ことばの遅れなど発達に不安を持つ親を対象に、専門機関と連携して相談体制を整備するなど子育て家庭を支える活動で母子保健を向上させた。

河原 智恵美氏

(51歳) 保健師・福井県



昭和57年、旧三方町に奉職。母子保健業務に携わるなかで新たな育児の課題を実感。その解決に向けて「保護者が主体的に育児をするための支援」を軸に据えた具体的対策に取り組んだ。近年は、母子保健活動を長期的視点で捉えた活動に熱心に取り組む、慢性腎臓病の予防と早期発見、コミュニケーションが苦手な子やハンディをもつ子どもの支援などに力を注ぐとともに一貫した相談体制の整備に努めるなど、母子保健の向上を図った。

古野 慈敬氏

(52歳) その他・徳島県



自身の子育て中に育児サークルの立ち上げに関わり、昭和63年からボランティアでサークル活動の支援や親子リズム遊びの指導などを行った。母子保健推進員、主任児童委員を経て平成19年美馬市の子育てマイスターに認定され、乳幼児健診の受診勧奨や介助、児童虐待の防止、育児不安の解消などに努めた。活動を通して地域の親子と絆を深める一方、行政の信頼も厚く、多方面から子育てをサポートする活動で地域に多大な貢献をした。

鹿野 恵美氏

(49歳) 助産師・長野県



昭和60年、地域の中核病院の助産師として活動を開始。退院後の母乳哺育や育児不安の支援体制づくりのため、「新生児連絡表」の作成等を行った。平成5年から自治体保健師として母乳哺育の推進、母子の愛着形成、発達障害の支援などに取り組んだ。平成20年、出産を扱う助産所を開業。妊産婦に寄り添う出産の支援を行う一方、妊娠前からの体と心の健康を支援するため、長期的視野で地域に根差した活動を行って住民の厚い信頼を得た。

大牟田 智子氏

(51歳) 助産師・福岡県



病院助産師を経て、昭和63年、助産院助産師活動を開始。妊婦の健康レベル低下に対し、予約制の妊婦検診で個々の生活に即した保健指導を行った。食生活や運動など具体的な実践可能な助言をし、妊婦自身が健康管理できるようサポートした。女性が主体的に妊娠・出産・育児に取り組むための継続的支援を目指し、地域と連携して産後の支援に努めた。また、妊娠前からの健康教育にも取り組み、地域に根差した助産師活動の構築に貢献した。

## 第34回（平成24年度）応募要領

**表彰対象** 55歳未満の者であって都道府県知事・政令市市長・特別区区長から推薦のあった個人で、母子保健事業に5年以上従事し、地域に密着した活動で著しい功績を挙げているとともに、今後も引き続き母子保健事業で大いに活躍が期待できる者を対象とする。

ただし、国・都道府県・政令市・特別区の本庁の現職員および現職の大学教授・准教授は除くものとする。

**表彰式典** 平成24年11月20日（予定）

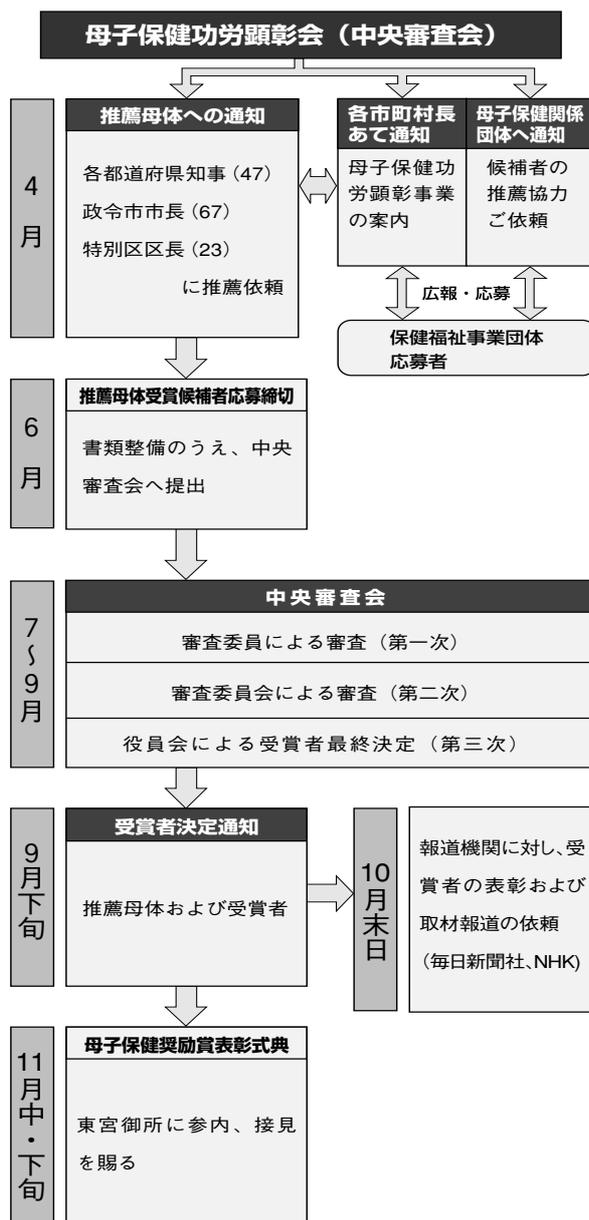
**応募先** （財）母子衛生研究会

母子保健功労顕彰会本部事務局

〒101-8983 東京都千代田区外神田 2-18-7

電話03-4334-1151（代）

### 母子保健奨励賞の応募から決定、表彰式典までの日程（予定）



### 志田 純子氏

（49歳） 管理栄養士・長崎県



昭和58年、長与町に奉職。61年、保健所管内初の町栄養士として活動開始。妊婦から高齢者まで継続的に栄養相談ができる体制づくりに努めた。乳幼児期の栄養の大切さを伝え、きめ細かい栄養指導を行うため、保健師と連携して乳幼児健診の充実を図った。また、栄養指導マニュアルの作成による指導内容の標準化、個別相談の実施、妊娠期から育児期まで一貫した相談体制の整備など、栄養相談事業の充実において先駆的役割を果たした。

### 姫野 晶子氏

（51歳） 保健師・熊本県



昭和57年、益城町に奉職。妊婦相談日の開設、2か月児訪問や歯科健診の導入などによって母子保健を向上させた。核家族や転入が多く、孤立する母子が増加していることに着目し、親子育児教室の開催や子育てサークルの支援を行った。平成17年、新設された子ども課で子育て支援、要保護児童対策に取り組んだ。児童虐待防止に熱心に取り組み、関係機関の連携、情報の一元化による対応の迅速化を図り、子育て相談の充実につなげた。

### 泉川 良範氏

（53歳） 医師・沖縄県



重症心身障害児の医療に携わるなか、障害児が地域で生きることの大切さに気づき、地域性を生かした療育システム構築に努めた。平成12年、沖縄県障害児(者)地域療育支援事業を活用した地域療育ネットワーク構築に取り組み、利用者の視点を尊重する支援の推進に努めた。また、長期入院児の地域生活を支援する仕組みづくりや、発達障害児に理解ある環境づくりに努めるなど、障害を持つ子とその親の支援において大きな役割を果たした。

### 平野 素尚氏

（48歳） 助産師・さいたま市



総合病院で助産師として出産に立ち会い、自らの経験をもとに未熟児とその家族のケアに取り組んだ。後に活動拠点を地域に移し、行政による母子保健事業に協力する一方、地元の助産師有志による「ティティベアの会（現：まんま まんま）」設立に関わり、地域の子育て支援活動を積極的に行った。また、思春期を支える社会の仕組みが不十分であることに気づき、思春期保健の充実にも努めた。これら継続的な子育て支援活動で地域に貢献した。

### 渋谷 光代氏

（53歳） 保健師・神戸市



昭和56年、神戸市に奉職。困難を抱えた母子の支援に力を注ぎ、ダウン症児、発達障害児、小児慢性特定疾患児等の支援では、地域の体制づくりに努めた。平成14年、母子保健と母子福祉の一体化を目指す「子育て支援室」が発足。全新生児の家庭訪問、健診未受診児のフォローなど児童虐待防止活動等に取り組み、親育ちや家族の支援に努めた。さらに、子どもを見守り支援する地域力の向上を目指して関係機関等との連携・協働に努めた。